

自然観察 NOW

野幌森林公園自然情報

平成23年度 No2

平成23年5月8日発行

北海道ボランティア・レンジャー協議会

例年にない大雪の覆われていた北国の森もやっと雪解けが進んで、春を告げる花々が咲き出してきました。野幌の森には、春一番を告げるウグイスの初音が聞こえ、カワラヒワなどの“夏鳥”も南から渡ってくる季節になってきました。ジジュウカラやヒガラなどの“留鳥”の鳴き声も、艶やかな“囀り（さえずり）”の声に変わってきたように聞こえます。

その花たちを見、鳥の囀りを聞くと、私たちの気持ちも高揚してきます。待ちに待った“春”の到来です！ その春を紹介しましょう！

早春を告げる花々

◎「スプリング・エフェメラル」（“春の妖精”の意）の花たち

春、雪の中からフクジュソウやカタクリ・エゾエンゴサク・ニリンソウなどの花々が顔を出して、森や林は冬のモノトーンの世界から鮮やかな色彩に変わります。

これらの花々は、別名を「春植物」とも呼ばれています。

春、雪が解け出すと一番に大きな花びらを開花かせ、太陽の光をたくさん浴びて光合成を行い、栄養を蓄えます。そして、まだ寒くて少ないアブやハチや蝶などの昆虫を巧みに花に誘い込んで、受粉の手助けをさせます。

やがて実を結び、頭上の樹木が新緑の若葉で森を覆い尽くす前に、子孫を残すのです。早々に葉を枯らして、地中深く根をはり夏から秋そして、冬の間長い眠りについて”冬眠”をします。これが早春の花たちの生きる智慧なのです。

その「春植物」の代表的な花を紹介しましょう。

○ フクジュソウ（福寿草） キンポウゲ科

別名「元日草」とも呼ばれ、江戸時代の初期から全国で縁起の良い花として、正月の床飾り花に使われました。また、春真っ先に咲くので“まんさく”とも呼ばれます。

黄色の光沢のある花びらは萼（がく）片。花びらをパラボラアンテナのように開いて太陽の光を集め、虫の少ない時期にハナアブの体を温めて花粉を提供します。花の中の温度は外より10度も高くなるといいます。花は晴れた朝に開き、午後には閉じます。

草食動物から身を守るために、アドニンという強力な毒を持っています。

○ カタクリ（片栗） ユリ科

万葉の昔から“堅香子（かたかご）”と呼ばれて親しまれ、和歌に登場します。

花びらが反り返って赤紫の六弁の花をつけます。その姿は“春の踊り子”を思わせるバレリーナのようなようです。花の蜜腺の上にW字状の斑点があり、そこに昆虫を誘って受粉を助けてもらいます。“片栗粉”はこの花の球根からデンプンを探って食用にしました。

葉が2枚にならないと咲かず、開花までは7年もかかります。そして、40年～50年と長い時間を生き続ける花なのです。

種子はアリによって運ばれて散布されます。

※ 「春植物」には、その他にキバナノアマナ、アズマイチゲ、ヒトリシズカ、オオバナエンレイソウなどがあります。ぜひ、“春の妖精”たちを探してみてください。

“夏鳥”の到来

昔、北国の人々は鶯（にしん）のことを“春告鳥”と呼びました。そして、ウグイスのことを“春告鳥”と言いました。これらがいずれも待ちに待った“春”を運んでくる生き物だったからでしょう。

ちょうど今、北国の森に春を運んでくるたくさんの「夏鳥」が渡ってくる季節になりました。

北海道での「夏鳥」とは、繁殖するために北海道にやってくる渡り鳥のことです。春に渡って来て夏を過ごし、秋南方へ渡って越冬する鳥のことです。

その代表的な鳥を紹介します。その中には、昔から「日本の三鳴鳥（めいちょう）」と呼ばれる鳥がいます。その鳥たちは、日本で轉るの音が一番素晴らしい鳥です。

○ ウグイス（鶯） ウグイス科

別名は、早春にさえずるので“花見鳥”とも言います。本州中部では留鳥か漂鳥です。

鳴き声は「ホーホケキョ」。聞きなしでは「法華経」となります。「ケキョケキョ」とけたたましく鳴くのは“谷渡り”と言って、警戒音です。

物の本によると、鳴き声にはその土地により方言があるとか？

体の色はオス、メス同色で、地味なオリーブ褐色です。実は“うぐいす色”とは、メジロの体の上面の色を言います。珍しいのは一夫多妻の鳥。オスはメスよりも少し大きいです。

○ オオルリ（大瑠璃） ヒタキ科

オスは名の通り、頭から上面は瑠璃色で、顔と喉から胸と脇腹は黒く、腹から下は白の美しい鳥です。

“声良し器量よし”の鳥は探鳥会では“人気者”です。

鳥は、さえずりは普通オスがしますが、この鳥はメスもさえずります。メスのさえずりは外敵を発見した時のオスへの伝達の鳴き声です。

沢沿いの高い木の頂きに注目して、見つけてください！

※ ちなみに“青い鳥”と言えば「オオルリ」、 “黄色い鳥”は「キビタキ」、 “赤い鳥”は「アカショウビン」、

ところが、北海道では最近はこの鳥の姿が全く見られなくなったので、“赤い鳥”は「ベニマシコ」になったようです。

○ コマドリ（駒鳥） ツグミ科

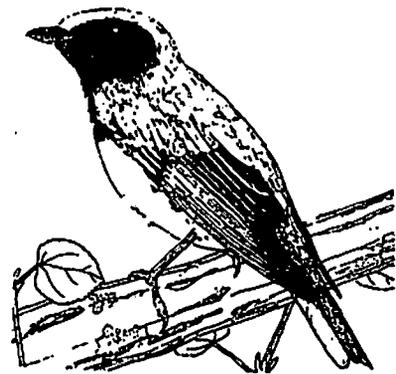
日本列島特産の鳥。英名は Japanese Robin。

オスは、頭部から胸にかけて赤い褐色で、背から上面はオリーブ色みの茶褐色。

鳴き声は「ヒンカラカラカラ」と張りのある美しい声。“駒鳥”の由来は、声が馬（駒）のいななきに似ていることから付けられました。山地の谷川に沿った森林で見られます。

学名は *Erithacus akahige*。命名したオランダの学者テミンクが「アカヒゲ」（屋久島〜与那国島に分布）と取り違えたため、今も誤記のような学名が使われています。

※ 他にもたくさんの「夏鳥」が森や林や草原、そして、湖沼・川・湿原・海にやって来ます。特に、木々の若葉が茂る前の春の森や林は、野鳥がよく見渡せる絶好のバードウォッチングの機会です。どうぞ、北国の春を野草と共に楽しんでください。



★6月の野視観察会 「森の新緑観察会」 6月5日（日）10:00～12:30 ふれあい交流館